

第2部 環境の現況

第2部 環境の現況

概況

第1節 自然条件

1 位置

本県は、本州日本海側のほぼ中央に位置しており、北は石川県に接し、東南から西南にかけては岐阜県・滋賀県・京都府に隣接している。

県土の総面積は4,188.71km²であり、全国総面積の1.12%を占めている。

2 地形

本県は、敦賀市の北東にある山中峠から木ノ芽峠を経て、栃ノ木峠に至る峰で嶺北、嶺南といわれる2つの地域に分けられ、地形や気候の面でそれぞれ異なった特徴を有している。

嶺北地域は、九頭竜川、日野川、足羽川からの土砂の堆積による福井平野を中心に、大野・勝山盆地、九頭竜川中流河谷や丹生山地、越前中央山地、岐阜県境に広く連なる越美山地、石川県にそびえる白山山地（加越山地）とそれに続く加越台地等から形成されている。

嶺南地域は、変化に富むリアス式海岸が続き、沈水から免れた山地と沈水してしまった入江・湾が交互に並列しており、各湾や入江の奥には、沈水地を埋積した狭い堆積地が、敦賀、美方、小浜の小平野を形づくっている。

3 気候

日本海に面し、北陸の西端に位置している本県は、冬期に曇りや雪の多い日本海式気候に属している。

しかし、地形や季節風の影響の違いなどにより、嶺南地域は山陰海岸型の気候で、冬の降水量は少なく温暖だが、これに対して、嶺北地域の奥越では、北陸山地型の気候で、気温は低く、冬期の降雪が多くなっている。

また、福井平野は、海岸に近い位置にありながら、海の影響の少ない内陸性気候を示している。

第2節 社会条件

1 人口

本県の人口は、昭和57年には800,911人であったが、その後増加し、平成12年には828,944人に達している。

年齢別構成をみると、平成12年では、年少人口（15歳未満）が15.7%、生産年齢人口（15～64歳）が63.8%、老人人口（65歳以上）が20.4%となっている。また、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、平成22年度には、県民の4.2人に1人が65歳以上の高齢者となることが予想されている。

2 経 済

(1) 県内総生産

平成 11 年度の県内総生産（県内で 1 年間に生産された価値の総額）は、市場価格による名目で 3 兆 1 千 7 百億円、平成 2 暦年価格による実質（物価上昇の影響を取り除いた価格）で 3 兆 7 百億円となった。

(2) 県民所得

県民所得は、家計・企業がその年度に得た収入の県全体の合計額ともいうべきもので、「雇業者所得」、「財産所得」、「企業所得」から構成されている。

平成 11 年度は 2 兆 3 千 5 百億円で、前年度に比べ 0.9% の減少となっており、また、一人当たりの県民所得は 283 万円で、同じく 0.9% の減少となった。

3 土地利用

平成 11 年の県土の利用状況をみると、農用地 10.4%、森林 74.8% であり、原野、水面・河川・水路などを加えた自然的土地利用が県土の 88.6% を占めているが、その面積は年々減少している。

県土の利用状況の推移

単位 ha (%)

区 分	平成 7 年	平成 9 年	平成 11 年
農 用 地	44,918(10.7)	44,218(10.6)	43,520(10.4)
森 林	313,544(74.9)	312,632(74.6)	313,200(74.8)
原 野	10(0.0)	10(0.0)	10(0.0)
水面・河川・水路	14,610(3.5)	14,603(3.5)	14,585(3.5)
道 路	12,401(3.0)	12,593(3.0)	12,771(3.0)
宅 地	16,420(3.9)	16,983(4.1)	17,436(4.2)
そ の 他	16,940(4.0)	17,816(4.3)	17,349(4.1)
計	418,843(100.0)	418,855(100.0)	418,871(100.0)